

平成28年度 首都大学東京大学院都市環境科学研究科  
都市システム科学域 選抜試験（夏季）  
博士前期課程（一般・社会人）

科目 <小論文>

時間 12：30～14：30

- 注意事項：
- ①問題の選択にあたっては、最初のページの冒頭の説明をよく読んで解答しなさい。
  - ②その他、監督者の指示に従うこと。

受験番号	一般・社会人	氏名
------	--------	----

以下の設問（１）～（４）の中から、いずれか１問を選択し解答しなさい。

（１）婚姻率の減少と離婚率の増加が都市に与える影響について論じなさい。

（２）下表は東日本大震災の影響で自宅に居住できなくなった世帯が入居する「仮設住宅等」の 2011 年 12 月 26 日時点での入居状況（復興庁まとめ）である。

- ①「公営住宅等」、「民間住宅（見なし仮設住宅）」、「新規建設型公的仮設住宅」について、その入居戸数も参照しながら、東日本大震災における、それぞれ 3 つの供給タイプのメリットとデメリットを述べよ。
- ②あなた自身の専門分野から、次の大災害に向けての「仮設住宅等」に関する改善提案を述べよ。

表 東日本大震災後の仮設住宅等の状況（復興庁まとめ，2011 年 12 月時点）

	入居戸数	提供可能戸数	備考
公営住宅等	17,792 戸	62,529 戸	岩手県内:1,366 戸，宮城県内:1,373 戸 福島県内:2,133 戸，その他:12,920 戸
民間住宅（見なし仮設住宅）	65,692 戸	-	岩手県: 3,845 戸，宮城県:25,255 戸 福島県:24,603 戸，その他:11,989 戸
新規建設型公的仮設住宅	47,803 戸	52,182 戸	岩手県(13,984 戸)・宮城県(22,095 戸)・福島県(16,226 戸)・ 茨城県・千葉県・長野県

(3) 平成26年度国土交通白書では、社会資本の老朽化について以下のように記述されている。

「我が国では、昭和39年の東京オリンピック以降に整備された首都高速1号線等、高度成長期以降に整備したインフラが今後一斉に老朽化し、今後20年間で、建設後50年以上経過する施設の割合が加速度的に高くなる見込みである。例えば、道路橋は、その割合が平成25年3月の約18%から、10年後には約43%、20年後には約67%と急増する。このように一斉に老朽化するインフラを戦略的に維持管理・更新することが求められる。」

この課題に対して、都市政策としてどのように対応すべきか。社会資本及び関連する事項に関する現状及び将来動向についての認識を整理しつつ、都市政策としての戦略の方向性について論じなさい。

(4) 一般に、都市は異質性が高く、異なる社会背景を持った人々が集まり、生活する場である。また、人種、民族、宗教、言語、性的嗜好等において少数者（マイノリティ）とみなされる人々も多く暮らす。以上を踏まえた上で以下の質問に答えなさい。

①ひとつの都市を選び、その名称を明記した上で、異なる社会背景を持った人々の集住に関してその都市ではどのような社会状況、課題が生じているか、論じなさい。日本以外の国の都市を選んでも構わない。

②その都市において異なる社会背景を持った人々同士が共存、共生していくためにどのような取り組みが有効か、あなたの考えを具体的に説明しなさい。

③①②で選択した事例に限らず、広く都市における人々の共存、共生とはどのような状態を指すと考えられるか、あなたの意見を述べなさい。